

# 地域レベルでもアジアと連携する時代。

## 西条市の取り組みは時代を的確に捉えていますね。



### (寺島会長談)

ことは、重要な戦略資源になるはず。国境や商圈を超えた広域での連携というものを重視していること、そしてアカデミズムとの連携を起爆剤にしている点です。先ほど触れたウラジオストクなど好例で、極東工科大学など科学技術系アカデミズムとの連携がキーになっています。一方で所得格差も生んでいます。消費水準はここ数年飛躍的に向上しています。伊藤市長がいま進めておられる施策は、的確に時代の流れを捉えていると思います。

**市長** 水資源の活用については独自の取り組みも始めています。経済産業省の支援のもと、大学や研究機関と連携してMH（水素吸蔵合金）を利用した省エネルギー型の冷凍システムの研究に取り組み、地元企業とタイアップして実用化をめざしているところ。このシステムは、工場から出る廃熱と豊富な地下水を利用して食品や農産物を冷蔵・冷凍するというもので、この技術をコアに「食料産業クラスター」を形成する構想も進んでいます。

**市長** „攻め“ のためには、情報を外にむけて積極的に発信していくことが必要です。そこで今年の春「食の創造館」という食をテーマとした情報発信の拠点を立ち上げ、地元食材のPRや新商品の開発などを行っていただきます。食料自給率70%を誇る西条の可能性を最大限に発揮したいというのが私の願いです。

**寺島** もうひとつ、これからの農業を考えるときに忘れてならないのは、エネルギーや環境問題と切り離して考えるべきではないということです。例えばサトウキビやトウモロコシを原料に自動車の燃料をつくるバイオマスエタノールは、石

油や石炭と違って二酸化炭素を増加させないし、植物資源からつくるので再生が可能です。これからの農業も、例えば環境にやさしい地場の農産物を産業化するなど、総合的な視点でいかに関係を生み出すかを考えるべきです。

**市長** たいへん重要な指摘だと思います。

### (2地域居住の時代へ)

**寺島** それと今回ぜひ話題にしておきたいのは、「2地域居住」についてです。日本人の個人金融資産は1500兆円。この国の未来を考えると、この金融資産をいかに将来に役立つ形で流動化し、戦略的に活用していくか。重要なテーマです。そのキーワードが「2地域居住」であり、国土交通省の国土審議会でもさかんに議論しているところです。

**市長** 人の移動をテコに地域の活性化を図るわけですね。

**市長** 2地域居住、つまり都会と田舎の両方に生活の拠点をもちつということですね。

**寺島** 一昨年1億2800万人でピークアウトした日本の人口は、40年後には1億人を割り込むと見られています。移民政策の転換でもない限り、定住人口を増やすことは難しいが、移動人口を増やすことならできるは

栽培は難しいですが、培養液を使って作物をつくる溶液栽培なら、十分可能です。

**寺島** 今後の進展に注目しています。ぜひ実現してください。

**市長** 最後に、寺島先生からなにかアドバイスをいただけないでしょうか。

**寺島** 例えば「サンキスト」といえば、ジュースを作っている会社と思われています。しかし実はサンキストは「南カリフォルニア青果協同組合」としてスタートした柑橘類の販売組合。世界的なブランドへと成長を遂げた背景には、優れた研究力とマーケティング力がありました。世界には、こうした例がいくつもある。アイデアと実行力さえあれば、地域初の世界ブランドだって難しくありません。

**市長** 本日はお忙しい中、ありがとうございました。

世代や組織の壁を越えて意見をもち寄り、西条独自のブランドを確立してください。

